

# 酒販ニュース

醸造産業新聞社

■昭和35年4月15日第3種郵便物認可 ■《旬刊》毎月1、11、21日発行／購読料1カ年17,600円(消費税込)／郵便振替口座00110-5-14639【本社】〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-5-5神田駅前SKビル／電話03-3257-6841／FAX03-3257-4939【関西支局】〒530-0044 大阪市北区東天満2-9-4千代田ビル東館／電話06-6356-0325／FAX06-6356-6909 ●E-mail:shuhan-news@jsnews.co.jp ●URL:http://www.jsnews.co.jp ●



## 最需要期、高い酒を売ろう

物価高で迎える師走。とはいえ、年末年始は高額品を売る最大の商機。例年以上に力が入るか。写真は東京のワイン専門店「ザ・セラー虎ノ門本店」。11月末から「泡もの」

コーナーで「シャンパーニュ 3本よりどり税込22,000円」の企画を始めた。13種から選べる。「年末くらいはいいものをお得に買いたい需要を狙う。選ぶ楽しみも提案する」

■主な記事■

**2・3** 本格焼酎で提案賑やか  
お茶割り・紅茶割り、飲み手開拓へ

**9** サントリーの4部門  
トップに聞く【第1回】

**特集** 値上げ続くみりん  
需要喚起の施策は

**12月1日**

2025年(令和7年)  
第2247号

shop nodino wine shop &amp; bar ●東京都新宿区●



●「人と人つなぐ」『ショップノディーノ・ワインショップ&バー』は、東京メトロ・神楽坂駅から徒歩7分の場所にある。運営するのはr.nexus（アー

ルネクス、東京）の西森亮子社長（48）と陸雄さん（64）夫妻だ。建築家の陸雄さんのイタリア駐在をきっかけに、ワインへの関心が高まった。「温暖化で新たな産地が出てきているほか、ナチュラルワインの増加にも可能性を感じている」と話す。

昨年4月、同店から15分程度の陸雄さんの事務所の一角でワイン販売を開始した。しかし、「路面店でないこともあり、イベント中心の場になっていた。消費者にしっかりと販売できる場

所を求め、今年7月に当店を開店した」と陸雄さん。店名の「ノディーノ」はイタリア語で「小さな結び目」を意味する。「ワインを通じて人と人をつなげ、地域活性化に貢献したい」と陸雄さんは意気込む。

●立ち飲み提供 売場には、イタリア産を中心に7カ国・約90種のワインを並べる。赤・白・スパークリングのほか、ロゼやオレンジまで豊富で、価格は3千～1万5千円

## 立ち飲みで伊ワイン訴求

今後、商品の入れ替えに寄与している」という。

好調で、価格帯は3千～5千円の売れ行きが良かった」という。品揃えの強みが、通常は「料飲店限定」のワインを複数種扱うことだ。「周辺

クトだが、気軽に落ち着いた雰囲気を出すため、店内に無駄なものを置かず、配置も工夫した。売場では「立ち飲み」も

でもらうため、立ち飲みを提供している」と陸雄さん。来店客は近隣住民が中心で、20代～80代まで幅広い層が利用する。「神楽坂は

近隣料飲店のピクルスやパテなどの軽食を立ち飲みで提供している。「競合するのではなく、共に地域を活性化させる。互いにお客を紹介し合える関係を目指す」（陸雄さん）

頻度を上げるほか、ワイン関連機材をオーブナー以外にも拡充する予定という。「ワインを通じて、当店が地域のコミュニケーションの核となることを目指す」と陸雄さんは話す。



上＝店の前にベンチを置き、近隣住民との接点を狙う／下＝西森陸雄さん（左）、亮子社長



●「ベンチ」で接点 人通りが多い地域性を生かし、近隣の料飲店・新規層との接点強化に取り組んで

●所在地● 東京都新宿区西五軒町 9-5  
●電話番号● 090(6176)5559  
●営業時間／定休日● 平日＝午後4時～10時、土日＝午後3時～10時／月曜  
●WEBサイト● <https://shopnodino.jp/shopnodino/>



立ち飲みは、グラスワインと軽食を提供



立ち飲みスペース

について紹介するという。インスタグラムのストーリーズは毎日投稿する。イベ